

令和2年度

学生によるオレンジリボン運動

聖泉大学 実施報告書



実施主体 聖泉大学別科助産専攻 助産師学生 10名

実施内容 子育て応援動画の作成・視聴による子どもの虐待予防活動

①事前に取り組んだ内容

事前には、学生ひとり一人が友田明美著『子どもの脳を傷つける親たち』、山口創著『幸せになる脳はだっこで育つ』を読み、マルトリートメント（不適切な養育）が子どもの脳へ重大な影響をもたらすこと、健全なこころの発達には愛着形成が重要であること、新生児期からの抱っこやスキンシップの大切さなどを学んだ。また、助産師学生として子どもの虐待の現状や乳児期における子育ての問題などを調べた。

特に、今春以降、新型コロナウイルスの感染拡大の状況により、外出自粛要請やリモートワーク等が続いており、家庭内で過ごす時間が増え、女性や子どもたちが夫や恋人による暴力（DV）、虐待、性暴力に遭うリスクが高まっていることを知った。

一方、妊娠出産を支援する病産院では、里帰り出産の受け入れ中止、母親学級や立ち合い分娩の中止、面会の制限等が続いており、母親たちは、これまでのように夫や祖父母の支援が受けられない現状にあった。また、外出制限から母親同士の交流や情報交換、気分転換の機会が少なく、不安やストレスの高まりが考えられた。

そのため、こういった孤立した育児状況における不安に向けては、動画という媒体で正しい知識を伝え、夫の育児参加など家族役割の変化がスムーズになる支援をすることが子どもの不適切な養育（子どもの虐待）の予防には必要ではないかと考え、妊産婦、夫をはじめとする家族にも視聴してもらえるよう「子育て応援動画」という名前にした。

動画作成が初めてであったため、事前に先輩助産師の動画やYouTube動画をみんなで視聴・検討し、話し方、パワーポイントの絵や文字数、具体的な見せ方など、わかりやすい動画づくりを目指した。

②実施期間に取り組んだ具体的内容

動画の内容は、chapter1.赤ちゃんのいる生活～パートナーとの絆を深めるために～
chapter2 新生児の泣きの特徴とその対応 chapter3.育児をする家族のこころの話
chapter4.赤ちゃんへの関わり、タッチケアとした。

動画作成においては、学生が抱っこやあやし方、赤ちゃんへの声かけ、タッチングなどを実践している場面を多く撮影し、具体的に理解してもらえるようにした。また、パワーポイント部分では、絵などをたくさん使用して、わかりやすく伝えるよう心掛けた。とくに、夫の育児協力を促し、新生児期での育児問題を予防するために、産後クライシスや産後すぐの母親の子育てにおける気持ちの紹介、新生児期から乳児期までの泣きの特徴とあやし方、ゆさぶられ症候群やイライラしたときに気持ちをコントロールする方法を紹介し、さらにはパートナーとの絆を深めるためのスキンシップについても収録した。

完成した動画は、当初DVDで視聴できるよう準備したが、臨地からの意見により、

スマートフォンで簡易に視聴してもらえよう QR コードも作成した。また集中力をもって気軽に視聴できるよう 10 分程度の chapter に分けるなどの工夫を行った。

完成した DVD、QR コードなどは、地域の保健センターに紹介し、母親学級などに参加できないプレママに視聴案内してもらったり、助産学実習において受け持たせていただいた妊産婦さんや夫に視聴していただいた。そして、動画視聴後には、アンケート調査を行い動画内容が対象者のニーズに応じているかを評価した。

③オレンジリボン運動を終えて・・・

今回の取り組みでは、特に妊産婦だけでなく、父親に向けて、産後の女性の変化や育児の実際についての動画を作成するよう工夫した。視聴後のアンケートや反応として、妊産婦からは「普段、なかなか口に出して夫に言えないことを動画で説明して下さっていた」「夫にも見てもらいたい」という意見、夫からは「お母さんの心境についての説明が参考になった」という意見があり、父親に対しても伝えていく事の必要性を実感した。

動画の印象に残った点では、「赤ちゃんとの関わり方」「泣きの特徴について」を記入した方が多かった。特に、新生児と接したことがない妊産婦や夫からは、「赤ちゃんの特徴やあやし方、声のかけ方など具体的な接し方が理解できた」、「生後 4 か月頃までが泣きのピークであり、ずっと泣き続けるわけではないということが分かった」など正しい知識を理解し、乳児の成長過程の見通しがわかることにより安心している意見があった。赤ちゃんの特徴について妊娠期～出産後すぐに伝えることは、産後の育児不安の軽減となり、このようなマルチリートメント（虐待）の予防的関わりを行うことが助産師の活動において重要だと感じた。

コロナ禍における妊産婦に対する母親学級や両親学級中止、面会の制限等は、妊婦とその家族に大きな不安を与えることとなった。

しかし、専門職が妊娠期の指導を十分に行うことで、正しい育児への理解となり、産後の育児不安、引いてはマルチリートメントの予防に寄与するということが分かった。今後も、オレンジリボン運動を通して社会全体で子どもへの虐待をなくすことを目指していきたい。



動画作成の様子①



動画作成の様子②



子育て応援動画担当学生



子育て応援動画 QR コード